

書林

第107号 2026年4月1日発行

巻頭言	1-2
私の薦めるこの1冊	3-5
図書館同好会おすすめ本	5-6
自著紹介	7-8
Welcome to SGU Library	9-10
from Library/編集後記	11



在外研究を終えて

伊藤万利子／心理学部准教授

2024年8月から1年間、アメリカのシンシナティ大学のHuman Performance Labにvisiting scholarとして在籍し、研究活動をする機会をいただきました。在外研究期間中、自己身体に関する視覚情報と姿勢制御の関係について、現実環境および仮想環境を視野に入れた基礎的検討に取り組みました。Human Performance Labは、Digital Futuresという新しい建物の一角にあります。Digital Futuresは、学際的な研究を行う複数の研究室が集まる施設で、滞在時にはまだ工事中の部分も多く、一部の研究室が入居していました。Human Performance Labの中にはいくつかの小さなオフィス（小部屋）があり、そのうちの一角を使わせていただきました。

研究室の皆さんには大変よくいただき、滞在中には一緒に野球観戦に出かける機会もありました。試合前にアメリカの国歌が流れ、周囲の人たちに倣って国旗の方を向き、手を胸に当てました。理由を十分に理解していたわけではありませんが、その場にいる人たちと同じ動作をすることで生まれる一体感が、とても心地のよいものでした。

滞在中には、必要な文献を探すために大学の図書館を利用することもありました。シンシナティ大学には複数の図書館があり、規模が非常に大きく工事中のエリアも多かったため、目的の場所が分からず、建物内で迷子になったことがありました。その際、たまたま通りかかった方が声をかけてくださり、目的の場所への行き方を教えてくださいました。人のやさしさを感じた場面でした。



シンシナティ大学の研究拠点
Digital Futures

アメリカ生活といえば、現状では、物価高が気になる点の1つだと思います。滞在中は、シンシナティ発祥のスーパーマーケットである Kroger を日常的に利用していました。渡米してすぐに店頭で見かけたチキンサラダには、ブドウとセロリが入っており、好みが分かれる組み合わせだとは思いましたが、フルーツと肉の組み合わせが好きなこともあり、試しに購入しました。ブドウとセロリの食（触）感がサクサクしていて思いのほか美味しく、以来、ブドウとセロリを日常的に買うようになりました。その後、滞在の途中で肉をあまり受け付けなくなり、食生活は変化しましたが、野菜やフルーツは引き続きよく購入していました。フルーツはほぼ毎日食べており、ベリー類を中心に、暖かくなるにつれてスイカやネクタリン、ピーチなども食卓に並ぶようになりました。

滞在当初、身のまわりの環境を意識して見ることはあまりありませんでした。しかし、冬になり、自宅の窓の外の木がすっかり葉を落とした頃、枝にとまる真っ赤な鳥が目に入り、思わず写真を撮りました。その出来事をきっかけに、あの鳥が同じ木にまた来ないだろうかと、自然と外を見るようになりました。春が近づくと、深夜にもかかわらず鳥の鳴き声が盛んに聞こえるようになりました。公園を散歩していると、深夜に聞こえる鳴き声とともに喉のあたりを大きく動かす腹部がオレンジ色の鳥の姿を間近に見ることがありました。暖かい季節になって、Digital Futures 周辺では、黄色い鳥を見かけることが多くなりました。季節の移ろいにともなう身のまわりの環境の変化を確かに感じるようになりました。

滞在中は、研究だけでなく日々の生活についても、無理なく落ち着いて過ごせる環境がありました。そのような安心して生活できる場所があることで、腰を据えて考える時間を持つことができ、論文執筆、実験、翻訳などに意欲的に取り組み、研究の進展に結び付く成果を得ることができました。このような環境を与えてくださったご関係のみなさまに、深く感謝申し上げます。



シンシナティ大学の図書館
Walter C. Langsam Library



『管野須賀子全集1』

管野須賀子著／清水卯之助編／弘隆社

3年ほど前、土岐善麿（1885-1980）の歌集をめくっていたら、連作の表題に「蕃柿忌」とあるのが目に飛び込んできた。「蕃柿」は「西洋の柿」くらいの意味。トマトのことだ。命日をトマトにちなんで名づけられた人がいる？

表題に続く詞書には「安成貞雄は、その顔もその恋も、宛然トマトなりき。六月十六日午後池上永樹院に五週年忌を営む」とある。容貌を何かに例えるのに、トマトを持ってくるとは。西洋野菜トマトの浸透ぶりとともに、機知や諧謔に富んだなぞらえ方に興味を覚える。

安成貞雄についての本は道立図書館にあった。『安成貞雄 その人と仕事』（不二出版、2004年）。1885年秋田県北秋田郡生まれ。東京専門学校（早稲田大）卒業後、新聞記者となる。社会主義に近づき、随筆や評論を発表。1924年に死去。そして年譜に「管野スガが貞雄の風貌を「トマトのようだ」と評したことから、命日を「トマト忌」と呼ぶ」とある。

管野スガ？ 私には意外な名前だった。社会主義者で、1910年の大逆事件（天皇暗殺を計画したとされた事件）で死刑判決を受け処刑された12名中唯一の女性。何度か見たことがある写真の顔からは、どこか暗い印象をもっていた。でも、この人のことを私は知っているのか。私の抱く印象は、弾圧事件の暗さ、彼女に向けられた「妖婦」といった決めつけに、気づかないまま染まっていたせいかもしれない。

この人を本人が書いた文章を通して知りたい。そんな思いに応えてくれる本が刊行されていて、すぐその図書館が所蔵しているのはありがたい。

管野須賀子（すが）は、1881年大阪生まれ。3冊からなるこの全集の1巻目は、1902年7月から翌年4月まで、20代はじめの文章を収める。そのほとんどは、大阪で刊行されていた新聞、『大阪朝報』に掲載された記事だ。彼女は当時、この新聞社唯一の女性記者だった。

市井を探訪しては、その様子を伝えるそれらの文章は、若やかで、文体がよく整っている。記者たる者の責任として、社会の問題点に論評を加え、改善を主張せねば、という思いが、端々に感じられる文章も多い。豪商鴻池善右衛門の邸内に飼育されているツルを見て、単に人間の娯楽のために動物を虐待してその自由を奪うことを「非道」と批判する。自分が夜の路上で性暴力に遭いかけた出来事を記し、女性を侮蔑し玩弄視する風潮を指弾する。

記者総出で戦場さながらの天神祭の取材に出立する直前に、「如何に男優りの気象を備へてゐても、女はやはり女であるから」と留守部隊に回された憤懣を、その新聞に書き綴っているのもおもしろい。

近現代史研究者の端くれとしては、もっと早くに出合うべき文章たちだったかもしれない。2巻目の途中まで読んだ今、以前に感じていた暗さとは全然違うものを、同じ写真から感じている。

山田伸一／人文学部教授

所蔵情報

【江別・1層書架:和書 書架番号2 081.6/KAN/1】

『歴史の風景—歴史家はどのように過去を描くのか』

ジョン・L・ギャディス著／浜林正夫、柴田知薫子訳／大月書店

いま、私の手元には明治末期の山口県のある医師が作成した日々の診察記録がある。実際に当時の医師が作成したマジの記録書、いわゆる一次史料である。もはや灰色か黄土色か、なんとも形容しがたい色の紙には、何月何日に何処の何某を診察した、軽度の肺炎だった、という具合に現在のカルテのような記録が残されている。

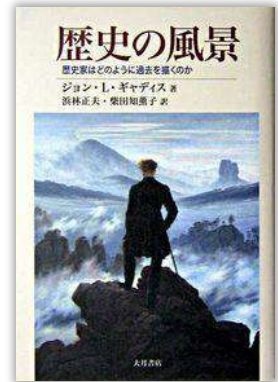
こうした一次史料を眺めていると、行ったことも見たこともない当時の土地とその風景が自然と思い起こされる。当時をフワフワと想像しながらつつい研究から脱線してしまうのであるが、ごくたまに、ふと“実際に見たかったなあ”と思うこともある。ぜひ医師に軽く挨拶でもしたいものである。それを叶えてくれるのがタイムマシンなのだろうが、残念ながら私の手元には無い。

ところで、もしある研究者（あるいは歴史家）がタイムマシンを手に入れたのなら、かれは“完全な”歴史を記録することができるのであろうか。答えはNOである。それはなぜか。かれは人間だからである。本書の著者、ジョン・L・ギャディスがいうように、人の認識能力には限界があるのだから「直接体験することが、必ずしも理解にいたる最良の道とは限らない」（p.7）のだ。

たとえば、関ヶ原の戦いを記録すべくタイムマシンでその真ただ中に降り立ったとしよう。無数の男たちが槍や刀を手に大声をあげて交錯している。かと思えば矢や火縄銃の弾丸が飛んでくる。合戦場はまさにカオスである。おそらく記録どころの騒ぎではないだろう。そんななか必死にリアルな記録をとったとしても、それもたかだかその瞬間に記録者が見える・聞こえる範囲の情報であって、広大な合戦場で起こった文字通りすべての出来事を記録することはできない。

しかし、今日の私たちは合戦の全体像を知っているし、その原因や経過、勝敗を分けた理由、そして結末やその後も知っている。なんならその場の当人たちよりも知っている。それは歴史家がある過去の出来事を選択し、いくつかの場面に同時に存在し、当時は見えず聞こえなかった出来事を統合したからである。過去を描くとはどういうことか、そして歴史家が眺める「歴史の風景」とはどのようなものか。本書はそれらを解説する本である。

私の大学院生時代の指導教員はホップズの研究者であった（もちろん現在も）。ある日、「歴史研究は読み物としておもしろくないとダメだよ」と指摘されたことがとても印象に残っている。なるほどと思った。よい歴史研究は途中で読み飽きない。出来事を淡々とならべるのではなく、全体を通じてストーリーがある。本書は歴史学の方法論に関する翻訳書であるが、特に前半部分は読み物としても非常におもしろいので、ぜひ読んでみてほしい。



堀池航洋／法学部講師

所蔵情報

【江別・1層書架:和書 201/GAD】

『チーズはどこへ消えた?』 スペンサー・ジョンソン著／門田美鈴訳／扶桑社

この本は、人生における「チーズ(目標)」と「迷路(現実)」を象徴的に描いた寓話です。ネズミのスニッフとスカリー、小人のヘムとホーは、常に貯蔵されていたチーズが消えた時、それぞれ異なる反応を示します。素早いネズミたちは変化を察知してすぐに新しいチーズを探し始め、小人たちは変化を拒み、現状にしがみつきます。



この物語は、変化が避けられないこと、そして変化を恐れずに柔軟に対応することの重要性を教えてください。チーズがなくなるのは、私たちが追い求める仕事や幸福が失われることの比喩であり、それぞれのネズミや小人の姿は、変化への具体的な対応を示唆します。変化を「チャンス」と捉え、積極的に楽しみながら行動することが、個人も企業も成長するために不可欠なことを教えてください。この寓話は、現代社会を生きる私たちに「変化を恐れず、常に新しいチーズを探し続けよう」という力強いメッセージを伝えています。気になった方は是非読んでください。

柳町翼／管財課

所蔵情報

【江別・1 層書架:和書 933.7/JOH】



『レーエンデ国物語』 多崎礼著／講談社

革命の話をしよう。
歴史のうねりの中に生まれ、信念のために戦った者達の
夢を描き、未来を信じて死んでいった者達の
革命の話をしよう。

この文章から始まる「レーエンデ国物語」は、異なる世界を描くファンタジーでありながらも、非情なまでに現実を描いた小説です。

王道ファンタジーと銘打たれ、本屋大賞ノミネートや絶賛話題という謳い文句に誘われ手に取ったときは、まさかファンタジー小説を読んだあとにあんな気持ちになるなんて思ってもいませんでした。

恐ろしく、そして美しい世界、呪われた地「レーエンデ」を舞台に繰り広げられる登場人物たちの人生と、長く続いていく革命。緻密で丁寧な文章は、実際にその場にいるかのような臨場感をもって迫ってきます。息を忘れてのめりこむような、まるで、自分もその世界で主人公とともに歩んでいるような没入感はなかなか体験できるものではありません。

眠れない夜も、この物語があればいい！ 読了後、思わず安心してしまうほどの感情の渦を是非。



図書館同好会[新札幌分館]所属
心理学部臨床心理学科 3 年 高橋叶望

所蔵情報

【江別・1 層書架:和書 913.65/TAS /1】

『透明な夜の香り』 千早茜著／集英社文庫

皆さんは、香りを嗅いで何かしらの記憶を再生した経験があるだろうか。

「香りは脳の海馬に直接届いて、永遠に記憶される。」私はこの作中の文章にロマンチックさを感じた反面、ほんの少しの恐怖を抱いた。香りが無条件に海馬に記憶されるということは二度と思い出したくないような憂鬱な香りも記憶されることになるためだ。

「人は記憶を選択することはできないのであろうか。」しかし、そのような思いは物語を読み進めるうちに変化した。

この物語では調香師の小川朔が住む古い洋館に家事手伝いとして若宮一香がやってくる。小川は並外れた嗅覚を持ちどのような香りでも作りだすことができる。そのため彼の元には個性的な依頼人が次々とやってくる。依頼人たちは小川が作る香りにより人生を良い方向にも悪い方向にも変えてしまうが、読了後、香りを記憶することで救われる経験もあるなら良いかもしれないと思うことができた。丁寧な心理描写や、ハーブを使った美味しそうな料理の描写にも注目。



図書館同好会[新札幌分館]所属
心理学部臨床心理学科 3 年 M

所蔵情報

【江別・2 層書架:文庫 913.65/CHI】

『告白』 湊かなえ著／双葉社

皆さんは「イヤミス」をご存知ですか？読後感がイヤなミステリーの略称で、本書の著者である湊かなえさんは「イヤミスの女王」と呼ばれています。本書は最初から最後まで読者をイヤな気分に変えてきます。まともな登場人物はほとんどいません。ページをめくる度に牛乳と血の匂いが漂ってくるようです。爽快なミステリーを読みたい方にはおすすしめしません。酷評しているようですが、私はそんな本書が好きです。人間が持つ他人には見せたくない感情が、著者の手によって暴かれていきます。

舞台は中学校。ある女性教師の「告白」から物語は始まります。事故で亡くなったとされている最愛の娘は、本当はこのクラスの生徒に殺されたのだと。そして自身が行った復讐を淡々と伝え、衝撃のホームルーム（第1章）は終わります。次の章からは、同級生、犯人の家族、そして犯人が語り手となり「告白」していきます。

「イヤミス」が好きな方、人間心理に興味がある方におすすしめしたい一冊です。ぜひ心に余裕があるときに手にとってみてください。



図書館同好会[新札幌分館]所属
心理学部臨床心理学科 3 年 Y

所蔵情報

【江別・1 層書架:和書 913.6/MIN】



『CRAFT がわかる!使える! : 物質使用症・ひきこもり・発達障がいのある人の家族支援』

松本俊彦監修／山本彩、能村彩有里編／金剛出版／2025 年



皆さんのご家族や親しい友人が、当初は気晴らしの手段だった飲酒にのめりこむようになったら皆さんはどうしますか？そして、その方ご自身は自分の状態を認めたがらず、一切の支援を拒否しているとしたらどうしますか？

Community Reinforcement and Family Training (CRAFT) は、そのようなときのために開発された家族向け認知行動療法プログラムです。CRAFT が開発される 1990 年代以前は、アルコール使用に問題を抱える本人が治療を拒否している場合、家族（親しいパートナーなど含む）が専門機関に相談に行っても、「本人が来ないと何もできない」と言われるばかりか、

「あなたが手を出しすぎるから本人が困らないのでは？愛ある突き放しを」という助言とともに、家族には「共依存」のレッテルが貼られました。後の研究で「共依存」に科学的根拠はなく、家族は本人の回復のために重要な役割を担うことがわかっていきました。CRAFT を家族が行うことで、家族自身の生活の質を高め、本人のアルコール使用量を減らし、本人を治療に繋げることを目指します。複数の臨床試験で、CRAFT 実施後非常に短い期間で約 3 分の 2 の本人が自らの意志で治療につながったという結果がでています。その後 CRAFT は、薬物やインターネット・ゲーム、ギャンブルなどの使用障害や精神疾患など幅広い対象へ用いられるようになり、オランダやリトアニアでは国や自治体の施策に導入されるようになりました。

日本では、厚生労働省班研究が 2010 年に発表した『ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン』で「CRAFT が参考になります」と紹介されて以降、CRAFT は広く社会的ひきこもりの家族支援に使われるようになりました。一方で、日本でよくおきがちなことですが、CRAFT をよく知らない人が CRAFT ワークショップの講師をしたり（間違ったやり方を広めることで本人や家族によくない影響がでるおそれがあります）、逆に、CRAFT を使ってみたいもののなかなか一歩が踏み出せない支援者がいたり、CRAFT の普及と実装には多くの課題があることが明らかになっていきました。この点は私の研究テーマでもあります。そこで今回、CRAFT の日本への紹介から認定ワークショップ開催、テキストの翻訳と、ずっと一緒に CRAFT の普及と実装のために活動してきた仲間の先生たちと、初学者から研究者まで誰にとってもわかりやすい CRAFT の解説本を書いてみることにしました。この本により、CRAFT が正しく・広く普及し、困っているご家族・ご本人が一人でも多く CRAFT につながることを願っています。

山本彩／心理学部教授

所蔵情報

【札幌・コリドール F(教員著作コーナー・展示) 146.812/YAM】



『医療スタッフのための動機づけ面接 1:逆引き MI 学習帳 第 2 版』

北田雅子、磯村毅著／医歯薬出版／2025年

本書の初版は、2013 年出版の Motivational Interviewing（以下 MI）第 3 版に準拠し、日本人の面談事例を中心に構成された「日本人のために日本語で書かれた動機づけ面接」ということで、とても多くの方に愛読していただきました。この初版から 12 年経過した第 2 版は、2023 年に出版された MI の最新版である第 4 版に準拠し、私自身の 10 年以上のトレーナー経験で得た知見と全国の学習仲間から寄せられた声を反映させました。

第 2 版は MI-4(最新版)に準拠

この本は MI の最新版である第 4 版に準拠しています。第 4 版では対象をより幅広い援助職に拡大しており、スピリットに「エンパワーメント」が加わり、目の前の人を尊重し自律をサポートすることが全編を通して強調されています。さらに、援助者はクライアントの問題を解決する特別な存在ではなく、クライアントと共に考え、共に歩む「ガイド」として伴走すること。そして、行動変容のみならず「成長」をサポートすることが力強く述べられています。

主なアピールポイント

この第 2 版は初版の 9 割以上を刷新しています。事例は全て新しくなっており、事例後の解説文はステージ理論モデルを念頭においた解説が増えています。さらに、リウマチ治療や禁煙外来、歯周病治療の事例など新しい事例が多く、特にページを割いているのは産業保健現場での面談事例です。加熱式タバコを吸っている職員との面談やお酒の飲み方に課題がある社員との面談について、臨床家の監修のもとで追加されています。コラムも充実しており、保健師育成の専攻科や薬剤師の育成と MI、ネガティブケイパビリティの紹介など多岐にわたっています。

これから学ぶ方へ

MI を学ぶことは、新しい言語や楽器を習得するプロセスに似ています。日常の対話の中で MI 的な要素を意識し、小さな積み重ねを続けることで、ある日大きな変化が訪れます。一方で、MI は万能ではなく、自己理解を伴う面談者自身の成長をも促すものです。MI の旅は思いのほか長く、奥深いもので、一つの目標に向かって進むというよりは日々、成長し続ける旅路になるかもしれません。

現在の MI 学習環境は 10 年前とは比べものにならないほど充実しており、皆さんの学びを支える資源や機会が豊富に整っています。ぜひ、研修会やワークショップなどに足を運び、実践的な学びの場に触れてみてください。

この本が皆さんの MI の旅のガイド役となり、素敵な未来を支える一助となることを願っています。

北田雅子／人文学部教授

所蔵情報

【札幌・コリドール F(教員著作コーナー・展示) 146.3/KIT/1】



Welcome
to
SGU Library

まんが COMIC コーナー

誕生!!

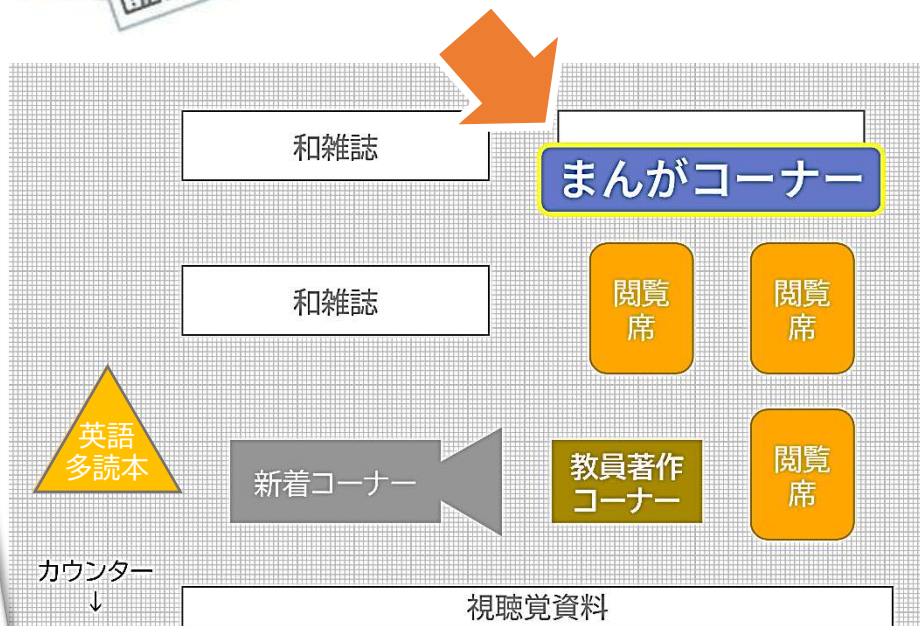
江別本館 1 階

以前から要望のあった
「まんがコーナー」が
できました！

場所は図書館 1 階、
新着コーナー奥の窓際です

手前の閲覧スペースで
ゆっくり読むことができます

もちろん貸出も可能です



図書館同好会のメンバーによる
飾りつけも見どころです！

昨年12月にタイトルが増えました
ぜひ一度見てみてくださいね！



図書館ブログ

<https://sgu-library.hatenablog.com/>

詳しくは図書館ブログにも記事があります。こちらもぜひご覧ください！

☆ 図書館同好会メンバー募集 ☆

【本と楽しむ仲間募集！】

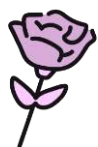
本と楽しみながら、仲間と交流しませんか？
読書や絵、文字を書くのが好きな人
大歓迎！

～こんなことをしています！～
＊ おすすめの本の展示
＊ 時期にあったポップ作成など

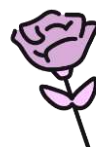
～気になることがあれば～
ぜひ一度見学にお越しください！
忙しい学生生活との両立可能！！
自分のペースで無理なく楽しめます！

※ Instagramでも情報更新中！※
DMでの連絡も可能です♪





第17回 図書館大賞 《結果について》



昨年の秋～冬にかけて、図書館イベント「第17回 図書館大賞」が行われました！
図書館員で厳正に審査し、受賞者が決まりました。おめでとうございます！！



<大賞> 益田 美紀 さん（心理学部臨床心理学科4年）

オススメ本：『顔のない遭難者たち』クリスティーナ・カッターネオ著/栗原俊秀訳/晶文社

【札幌・固定：和書 書架番号 1-22 498.9/CAT】

<2位> 山崎 莉音 さん（心理学部臨床心理学科3年）

オススメ本：『「本当の自分」を愛する心理学』シュテファニー・シュタール著/繁田香織訳/大和書房

【札幌・固定：和書 書架番号 1-22 146.8/STA】

<3位> 菊池 桃香 さん（人文学部こども発達学科3年）

オススメ本：『ライオンのおやつ』小川糸著/ポプラ社

【江別・1層書架：和書 913.65/OGA】



図書館HPの「お知らせ」に、受賞した文章を掲載しています！

「図書館大賞」は学生の皆さんの読書活動推進と表現力向上を目的として実施しています。

受賞した紹介文を読み、オススメ本に興味を持っていただけますと嬉しいです！

ブック ハンティング book Hunting

in 紀伊國屋書店札幌本店

書店さんで本を選びました

11月4日(火)、紀伊國屋書店(札幌本店)さんで
図書館に入れてほしい本を選ぶイベントを実施
しました！

図書館同好会「本倶楽部」の学生と職員が
参加し、(静かに)楽しい1時間となりました。



それぞれ思い思いに選んだ本は、図書館に
入荷され、展示で飾られています！手作りPOP
も魅力的なので、じっくりご覧ください！！

《まだ知らない本と出合えるかもしれません》



ハンディターミナルで
読み込むのだ！



図書課に異動して、気づけばもうすぐ3年になります。異動前は「図書館＝静かな場所」というイメージが強く、穏やかな毎日を想像していました。でも、実際に働いてみると、図書館は静かでありながら、とても動きのある職場です。利用者対応、図書の選書、資料整理、システム管理、予算管理など、裏側ではさまざまな業務が同時進行しています。今日は、そんな図書館の仕事を少しご紹介したいと思います。

もちろん、紹介する全ての業務を担当したわけではありません。あしからず…

◆カウンターでのやり取り

図書館の顔ともいえるカウンター業務。ここでは、学生や教員、地域の方々と直接やり取りします。レポートの参考文献を探す学生、趣味の本を借りる方、そんな光景を見ていると図書館で働いているんだなあ実感できます。

◆本の発注から配架まで

大学図書館では、学術書や専門書の選書が重要です。新刊情報や教員の推薦、学生のリクエストを参考に、予算と相談しながら発注。届いた本は受け入れ作業を経て、所蔵データを登録し、ラベルを貼って分類。最後に棚へ並べて、ようやく利用できる状態になります。こうした一連の流れを知ると、「図書館の本が並ぶまでには、意外と手間がかかっているんだな」と感じてもらえると思います。

◆電子資料と教育連携

最近は電子ジャーナルやデータベースの利用が増え、図書館の役割も「本を貸す場所」から「情報を届ける場所」へと広がっています。操作に戸惑う学生も多く、「この画面、どこを押せばいいんですか？」と質問されることもあります。こうしたサポートに加え、図書館では情報リテラシーガイダンスも行っています。レポートや論文を書くための資料の探し方、データベースの検索方法など、学びを支える取り組みです。こうした活動を通じて、図書館が教育の一部を担っていることを実感します。

◆イベントや広報活動

図書館では、利用者に親しみを持ってもらうためのイベントや広報活動も行っています。展示企画や図書館報『書林』の発行もその一つです。おすすめ本の紹介や、教員による著書紹介など、図書館をもっと身近に感じてもらえる工夫をしています。こうした取り組みを通じて、図書館が「情報の発信基地」であることを再認識します。

◆最後に…

図書館は、ただ静かに本を読むだけの場所ではなく、人と情報をつなぐハブです。デジタル化が進む中で、図書館の役割はますます広がっています。紙の本も、電子資料も、どちらも大切。「ここに来てよかった」と思ってもらえる図書館づくりを目指していきたいと思いますので、学生のみなさん、ご意見があればぜひ私まで声を掛けてください！

編集後記

書林第107号をお届けします。新年度がスタートしました。新たな一步を踏み出した皆様に寄り添える図書館でありたいと思っております。ご多用にもかかわらず執筆してくださった皆様に、心よりお礼申し上げます。

*掲載記事の著作権は札幌学院大学図書館にあります（無断転載禁止）。

紹介資料の写真掲載については各出版社に許諾をいただいています。各出版社に心からお礼申し上げます。